

(議長)

次に、萩原議員の発言を許可致します。

(議長)

はい、「萩原議員」。

「萩原議員」

それでは、早速質問に入ります。日本で最も美しい村連合についてでございます。

去る10月2日、日本で美しい村連合の加盟が承認されました。活動目的は自らの地域に誇りを持ち、将来にわたって美しい地域づくりを行う事、住民による町づくり活動を展開することで、地域の活性化を図り地域の自立を推進する事、生活の営みにより作られてきた景観や環境を守り、これらを活用する事で観光を付加価値を高め、地域資源の保護と地域経済の発展に寄与する事、となっております。登録された地域資源といたしまして、いにしえ街道、江差追分、姥神大神宮渡御祭となっております、現地審査員の講評の中で、評価も受けつつ、江差追分では新たなファン作りや若い世代の参加が課題、いにしえ街道では見せる観光から通年型や滞在型のツーリズムへの転換などの助言も受けております。

今後これらの3つにある各団体と、どう連携し取り組んでいくのか。また活動目的にある住民による町づくり活動を展開、とありますが、住民とどう活動していくのかお伺い致します。

「町長」

議長。

(議長)

はい、「町長」。

「町長」

萩原議員の1問目にお答え致します。

本年10月に日本で最も美しい村連合に加盟した事により、議員ご指摘のとおり、今後各団体とどう連携し取り組んでいくかという事ですが、まず来年度、役場庁舎内の各課による横断的な組織として推進本部を立ち上げたいと考えております。

次に、官民一体となった運営組織として、江差町内の関係する諸団体に呼び掛けをして、仮称ではありますけれども、江差町日本で最も美しい村づくり協議会という住民運動の核となる組織を立ち上げて、運動を推進して参りたいと考えております。

また住民とどう活動していくのかという事ですが、美しい村づくりへの町民意識の高揚は勿論のことですが、官民一体となって道路河川の清掃やごみの一掃運動、また公園、花壇の整備などに取り組んでいきたいと考えております。

尚、年間を通した具体的な活動方針は、新しく立ち上げる協議会の中で話し合いを行って参りたいと考えておりますのでご理解願えればと思います。

(議長)

はい、「萩原議員」。

「萩原議員」

協議会等を立ち上げるという事でわかりました。

それで、2問目なんですけども、いにしえ街道にですね、いにしえ街道にあの寄贈された蔵があるんですけども、調査が春に終わったと聞いておりますが、今後どのような、どのようにしていくのかということと。

後ですね、姥神大神宮渡御祭において来年は新幹線の影響や、祭りの日が山の日で祝日になり、たくさんの観光客が来町すると考えられます。しかし、公衆トイレなどが少なく、実行委員会が各町内から負担金を集めて設置したり、ある団体が設置していたりしていましたが、私はこの公衆トイレは町が考えるべき、町がやるべきと考えますが、いかがでしょうか。

(議長)

はい、追分観光課長。観光だ、観光だべ。水道建設か。

水道建設課長。「建設水道課長」だ。

「水道建設課長」

はい、あの姥神土蔵の関係につきましては、私の方からご答弁申し上げたいと思います。

議員ただいまおっしゃったとおりですね、姥神土蔵4棟につきましては、昨年度構造調査を実施してございます。この調査の結果からですね、修繕の規模には大小ございますが、4棟それぞれにおいて一定程度の修復が必要だという結果が出てございます。今年度に入りまして、修復に係る補助事業のメニューですとか、修復方法などについて精査をこれまでしてきたところでございまして、これらを踏まえた上ですね、今後、利活用についてまずは内部で検討協議をして参りたいとそうように考えてございます。その上でですね、町としての方向性をお示ししながら、関係団体または地域と協議をして参りたいと考えておりますのでご理解願います。

(議長)

「追分観光課長」。

「追分観光課長」

ただいまあの姥神大神宮渡御祭の祭典について、トイレのご質問がございました。あの議員ご指摘のとおり、町の方で設置しているトイレもございますが、あの数が少ないという事で、今年度、

若手のお祭りに係る方々の協力により、神社前に5基を設置して頂いた。そのような事を踏まえまして、来年度はですね、この祭典に係るトイレについては、やはりあの観光客の利便性や町民の方々の利便性、これらを考えた上で、町の方で設置すべきものと考えつつ、あの来年度の予算要求に向けて頑張っていきたいという風に考えております。

(議長)

いいですか、萩原議員。

はい、次に2問目に。

はい、「萩原議員」。

「萩原議員」

はい、2問目、病院についてでございます。

町内には病院が2箇所、診療所が3箇所あるが、現在1箇所休診している状況でございます。北海道では、管内受診率を高めようとしているが、南檜山は管内受診率が低く、受診についての、受診について一部制約を受けているようではありますが、町ではどう認識し、どう対応しているのかお伺い致します。

(議長)

はい、「町長」。

「町長」

地域医療に対するご質問であります。

当町は一次医療機関とセンター病院である道立江差病院が連携をし、住民の安心安全の確保に努めているところでございますが、診療科目によっては、毎日診療していない科や原則予約制となっている科もあり、また送迎バスなどがある事から、渡島管内の医療機関に受診している方も居ることは、議員ご承知の事と思えます。

受診しやすい診療体制の充実に関しましては、道に要請をしておりますし、札医大に対しましても医師派遣等について要請行動を行っております。地域医療の充実は安心して生活を続けていくための必要不可欠なものであると考えておりますので、今後は一部制約を受けている点も踏まえて、道や札医大に対し更なる要望をして参りたいと考えております。

(議長)

はい、「萩原議員」。

「萩原議員」

北海道では、管内受診率を高めようとはしているんですが、実際、江差町では管内受診率は

何パーセントあるのか。もし分かったら教えてください。

あとその管内受診率というのはある程度目標があるのか、お伺い致します。

(議長)

はい、「健康推進課長」。

「健康推進課長」

まず、管内受診率でありますけれども、医療、入院、外来ともにおおよそ3割が管外に出ているという事で、7割が管内の受診率という風になっております。

目標は高ければ高いほど良いという事になるのでしょうかけれども、あの道内21、二次医療圏がありますが、檜山は、南檜山におきましては下から5番目くらいでして、低いところでは北空知や宗谷、日高、留萌というところが、あの南檜山よりも低いような状況になっています。

(議長)

はい、いいですか。「萩原議員」。

「萩原議員」

そのあの低い理由といたしましては、やっぱりそのこの管内でですね、あの診療出来ない科目が多いから、科目があるからということなのでしょうか。

(議長)

はい、「健康推進課長」。

「健康推進課長」

はい。細かい分析はなかなか出来てない現状にはあるんですけども。国保のレセプトから請求内訳からひと月分だけですけれども、調べた現状があります。そこを見ますと送迎バスがやはり出ている科、科目というんですかね、そこは管外に出ているケースが多いという事と、あとあの毎日診療していない科目に関しましては、やはりあの管外に診療を求めて出かけているというか、管外の方に出ているという事が多い傾向にございました。

「萩原議員」

3問目。終わった。

(議長)

はい、以上で、萩原議員の一般質問を終わります。